

グローバル COE シンポジウム報告書

理学研究科化学専攻 廣戸 聡

名称：グローバル COE 有機若手ワークショップ

世話人：京都大学理学研究科化学専攻 廣戸 聡

京都大学理学研究科化学専攻 大松 享介

京都大学理学研究科化学専攻 安原 祐一

場所：北部キャンパス理学研究科 2 号館 1 2 0 号室

日時：2008 年 2 月 7 日（木）～8 日（金）

参加者：大学院学生、学生、博士研究員、教員

参加者総数：87 名

シンポジウム内容：講演者と演題は以下の通りである。

招待講演：

平岡秀一（東大院理）「らせん型モーショントランスミッターによる 1.5nm の運動伝搬

櫻井英博（分子研）「「バッキーボール」の合成戦略と展望」

伊藤肇（北大院理）「求核的なホウ素-銅（I）触媒活性種の発生：有機ホウ素化合物の革新的合成法」

松永茂樹（東大院薬）「複核シッフ塩基錯体の特性を活用した不斉触媒反応の開発」

西林仁昭（東大院工）「複数の遷移金属を用いた新しい反応の開発を目指して」

桑野良一（九大院理）「遷移金属触媒を用いたベンジルエステルの新しい変換反応」

新谷亮（京大院理）「パラジウム触媒による新しい分子間環化付加反応」

若手講演：

猪熊康英（京大院理）「サブポルフィリンの化学」

植田光洋（京大院理）「新規に開発した軸不斉二級アミン触媒を用いた反応開発」

池田大次（京大院理）「鉄／銅協同触媒を用いる Grignard 反応剤の反応」

本ワークショップは精密有機合成の分野で第一線で活躍する若手の講師を招待し最新の成果を提供していただくことにより最近の有機化学の広がりを認識するとともに、全ての運営を学生が主体となっていくことで本グローバル COE に

属する大学院生の自発性を高めるという目的で企画された。招待された先生方は年末にもかかわらず北海道大学から九州大学まで多方面から本ワークショップに快く応じていただいた。講演では未発表の成果だけでなく研究の進め方、考え方についてもお話しいただいた。講演後は活発な質疑が行われ、またその後行われた懇親会においても講演者を交えた有意義な時間を提供でき、研究者を目指す学生には多いに刺激になったと思われる。一方、運営の方は最初の試みでありぎこちないながらも講演者とのメールのやりとり、座長を務めるなど貴重な体験を行うことができた。また無事に本ワークショップを開催できたことが自信につながったと思う。今回は場所の関係上学生の発表が少なかったが第二回、第三回と練られることでより良いワークショップに繋がる可能性が見えた。



講演会の様子。



懇親会の様子。